

夢はNGO医大創設

救える命があれば

菅波 茂

□16□



菅波 茂

ネパール支部の活躍

応急処置として傷口の消毒や傷の縫合、骨折や捻挫部位の固定（添え木）を行い、また鎮痛剤や抗生物質など医薬品を支給した。

二〇〇四年十二月二十六日に発生したスマトラ島沖地震・津波被災者救援活動に、AMDAネパール支部はインドのチェンナイとインドネシアのバンダアチエの二カ国に医療チーム十一人（医師六人、看護師二人、調整員三人）を派遣した。彼らはAMDA多国籍医師団の中核。世界の屋根ヒマラヤから、紛争地や災害地に駆け下りる彼らの

難民支援では、ソマリ・エチオピア難民支援（シブチ国内、一九九二年から医師派遣）、アフガン難民支援（九八―一九九九年）のほか、コンボ、チェチエン、ルワンダ、バングラデシュなど。自然災害では、パキスタン北部地震（二〇〇五年）に医師三人・調整員一人、インド西部地震、カソホリア・メコン川大洪水、アフガニスタン震災などである。

AMDAは、十七日からは計百九十四人に対し、

多国籍医師団の中核に



民主化要求デモで負傷者の応急措置をするAMDAネパール支部の医師ら（左）
4月24日、カトマンズ市内（AMDA提供）

微だ。

AMDAネパール支部は、ネパール国内では著名な医療NGOである。カトマンズ以外では唯一にして最大の産婦人科と小児科を持つ「ネパール子ども病院」(フトワール市)と、国連難民高等弁務官事務所から委託を受けたフータン難民キャンプの後方支援「AMDA病院」(タマック市)を運営している。この病院には看護師や検査技師養成学校も併設されている。

医科大学となる。目的は国内では最新医療と僻地医療、海外では紛争や災害に貢献するAMDA多国籍医師団の人材育成だ。AMDAインターナショナルの国際ネットワークが全力を挙げて支援する予定である。

階級)の家系。首都カトマンズで開業し、ネパール医師会事務局長の重責も担う。一九九五年から一年間、アフリカのアンゴラ難民支援プロジェクトに参加してくれた。

後日談だが、本部には内証で看護師の奥さんが一歳の赤ちゃんを連れて

保健教育活動に頑張つてくれたとのことだった。彼の思量深い発言には万鈞の重みがあり、私の知恵袋でもある。信義と約束を大切にしているネパール支部の構成員の大多数がフーアマンで、話し合

AMDA(特定非営利活動法人アムダ)理事長
この連載は毎月第四日曜日に掲載します。